

ロータリー青少年指導者養成プログラム

SKY, WIND and HARMONY

空と風と調和

21世紀の豊かさの意味を考えよう

秋のライラ報告書

- 【開催日】 2006年10月7日(土)～9日(月・祝)
【場 所】 大阪成蹊大学・びわ湖バレイ
【主 催】 国際ロータリー第2660地区 青少年活動委員会
【ホスト】 大阪そねざきロータリークラブ
大阪市北区梅田1丁目8番8号ヒルトン大阪1115室
TEL 06-6345-5067 FAX 06-6345-2518

2006-2007 国際ロータリー 第2660地区



SKY, WIND and HARMONY

空と風と調和

21世紀の豊かさの意味を考えよう

開催日：2006年10月7日(土)～9日(月・祝)

場 所：大阪成蹊大学・びわ湖バレイ

開講式・基調講演 式次第

会場 大阪成蹊大学 相川キャンパス
司会 大阪そねざきロータリークラブ
菅原真一

I 開講式

- | | | |
|-------------------|-------------------------|---------|
| ● 開会点鐘 | 大阪そねざきロータリークラブ会長 | 中 明 夫 |
| ● 国歌斉唱 「君が代」 | ソングリーダー | 片 本 邦 |
| ● ロータリーソング「奉仕の理想」 | ソングリーダー | 片 本 邦 |
| ● 開会宣言 | 大阪そねざきロータリークラブRYLA実行委員長 | 山 田 芙美江 |
| ● 歓迎の挨拶 | 大阪そねざきロータリークラブ会長 | 中 明 夫 |
| ● 地区委員長の挨拶と来賓紹介 | RI第2660地区青少年活動委員会委員長 | 泉 博 朗 |
| ● 来賓の挨拶 | RI第2660地区ガバナー | 岩 田 宙 造 |
| | RI第2660地区ローターアクト委員会委員長 | 高 橋 敏 朗 |
| ● 閉会点鐘 | 大阪そねざきロータリークラブ会長 | 中 明 夫 |

II 基調講演

講演テーマ 「明日を見つめる若者たちへ」

講 師：九 重 親 方 (元横綱 千代の富士)

III 閉会の辞

大阪そねざきロータリークラブ会長 中 明 夫

ロータリーソング

「奉仕の理想」

奉仕の理想に集いし友よ
望むは世界の久遠の平和
永久に栄えよ

御国に捧げん我等の業
めぐる歯車いや輝きて
我等のロータリー ロータリー

開会宣言

大阪そねざきロータリークラブRYLA実行委員長

山田 美美江



みなさま、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、秋のライラホストクラブ実行委員長の山田でございます。心配しておりました雨も何とか小雨程度になり、やはり今日お集まりのみなさま方のご精進がいいのか、われわれスタッフの精進がよかったのか、何とかいいお天気になってまいりました。

本日から三日間、「SKY, WIND and HARMONY 空と風と調和」をテーマに、秋のライラが開催されます。本日ご参加いただきました受講生のみなさん、どうもありがとうございます。そして、岩田ガバナーをはじめロータリアンのみなさま、ご苦労さまでございます。

まずはじめに、本日からご参加の方、登録者の方々の人数を発表させていただきます。受講生初級81名、上級10名、参加ロータリアン140名、登録者274名、全員で505名のご登録をいただきました。このように多数の方々にご登録、ご参加いただけましたことを、大阪そねざきロータリークラブ会員一同に代わりまして、私より御礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

さて、私たち大阪そねざきロータリークラブの会員は、ホストクラブといたしまして、約1年前から一丸となり、この秋のライラに向かって、びわこ成蹊スポーツ大学の先生方、また地区の青少年活動委員会のみなさまにご指導、ご協力をいただきまして、何とかこの日を迎えることができました。高いところからですけれども、みなさま、ほんとうにありがとうございました。

受講生のみなさんはこの式典、基調講演が終わりましたら、びわ湖バレイのほうへ移動し受講していただきます。私たちロータリアンは、あなた方がこの三日間、楽しく有意義に過ごされ、この経験を生かし、地域、日本、世界、あらゆるところで活躍されることを願っております。そして、リーダーシップを発揮していただくことも重ねて願っております。

私事で恐縮でございますが、実は、この大阪成蹊学園は、中学、高校、短大と、8年間通いました、わが母校でございます。私の人間形成のなかで一番大事な時期を、この大阪成蹊学園で過ごせましたことを誇りに思い、たいへんうれしく思っております。またここで開講式が開かれるということも、記念すべき日として、私の思い出にさせていただきます。

ロータリアンの友情に感謝し、受講生のみなさんに栄光がありますように祈念いたしまして、私の開会の宣言とさせていただきます。ありがとうございました。

歓迎の挨拶

大阪そねざきロータリークラブ会長
中 明夫



みなさま、こんにちは。2006年秋のライラに、このように多数ご参加くださいます、ホストクラブとしてたいへんありがたく存じております。

本日の開講式には、国際ロータリー第2660地区ガバナー、岩田さま、地区青少年委員長、泉さま、地区ローターアクト委員長、高橋さまほか、地区青少年活動委員会委員のみなさま、また各ロータリークラブのみなさまの多数のご臨席を賜りましたことを、高いところからでございますが、厚く御礼申し上げます。

今回の秋のライラは、びわ湖バレイにて実施することを踏まえまして、テーマを「SKY, WIND and HARMONY 空と風と調和」といたしました。そして、サブテーマを「21世紀の豊かさの意味を考えよう」といたしまして、身の回りにもものがあふれているいまの時代に身を置いていることと、それらがすべて自然の恩恵であることを考えていただきたいとの思いを込めたテーマとさせていただきました。

こんにちは日本の若い世代の人たちは、自ら何かに挑戦するという性格を持っている人が少なく、何ごとにも受け身で受け止める性格の人が多くと分析している学者がおられます。しかし、その分析は、必ずしも若い人たちすべてに当てはまる評価ではないと思います。特に今日ここに参加していただいたみなさまは、おそらく挑戦する積極的な姿勢を持っている方たちだろうと思っております。

今回のプログラムは、いろいろなことにみなさん一人一人が積極的に挑戦し、取り組んでいただくことから、いろいろなことを学んでいただけるものと確信しております。すでに社会人として活躍している方、学生として勉強に励んでいる方など、いろいろな立場の人が参加されておられます。ぜひこのライラに参加されたことを通じて、ライラの目的の一つである、地域社会の市民であること、そして世界の市民であることを自覚して、お互いに新しい友人として、市民であることの意味を考え、語っていただきたいと思います。

この開講式のあと、基調講演を行います。講師はみなさまご存じの、元横綱千代の富士の九重親方をお呼びしております。「明日を見つめる若者たちへ」というテーマでお話ししていただきますが、いろいろと貴重な体験のお話も聞かせていただけるものと思いますので、どうか楽しみにゆっくりお聞きいただければと存じております。

どうか今回のライラで自然の素晴らしさを十分に身体で感じ、いろいろなものに恵まれた社会のありがたさと意味を考えながら、三日間を有意義に過ごしてください。そして、素晴らしい思い出をつくってください。みなさまが健康で有意義な三日間を過ごせますようにお祈りいたします。私の歓迎のあいさつとさせていただきます。どうか頑張ってください。

地区委員長の挨拶

RI第2660地区青少年活動委員会委員長

泉 博朗



こんにちは。泉でございます。今日はようこそおいでいただきました。また、505名の参加ならびに登録をいただきまして、誠にありがとうございます。心よりお礼申しあげます。

このライラといいますのは、まず聞き慣れない言葉だと思えますけれども、Rotary Youth Leadership Awards、日本語ですと、ロータリー青少年指導者養成プログラムの略でございます。このライラは、国際ロータリーより考えられまして、青少年リーダー育成のためのプログラムであります。ロータリーとは、世界に約120万人の会員を有する集まりであり、世界の平和のための奉仕活動を行っている団体でございます。このライラもその一つの奉仕活動でございます。

このライラは、実は世界中で同じようなかたちで行われております。今年の6月に、あなた方の先輩を3名、スウェーデンで行われました世界ライラ大会に派遣いたしました。これはみなさまにも、そのチャンスはございますので、よく頑張ってください、ご応募していただけたらと思います。

そして、このライラは、あなた方にリーダーにとって大切なものは何かということ伝えてくれるであります。

私たち、このロータリーのメンバーは、経営者であったり、指導者であったり、管理者であったり、またはお医者さんであったり、弁護士であったりなど、さまざまな技術を持つ、現役の職業人の集まりです。そして私たちは、きみたちがいま悩んでいること、持っている夢などある意味では克服をして、自分なりに解決してきたものたちばかりです。この三日間、私たちもあなた方の班のなかに、ロータリーパパ、ロータリーママというかたちでみなさま方と一緒にいたします。ぜひともわれわれに遠慮なくそういったところ、あなた方の悩みであったり、夢であったり、希望であったりをどうぞ相談していただけたらと思います。

まず、この三日間、楽しく過ごしていただくことが大事です。やはり心が開かないと、人の声は自分の心には届かないのです。ですから、心を開くこと、それはまず楽しむことだと思います。どうぞこの三日間、楽しく、そしてリーダーとしての大切な心得というものを学んでいただきたいと思えます。

それでは、私たちの仲間をご紹介します。

私たちロータリークラブは、世界中にいろいろあるなかの大阪の北部、大和川以北のグループで、国際ロータリー第2660地区といわれております。そのなかで、いわゆる一番偉いのがボスなのですけれども、これをガバナーといっております。それでは、岩田ガバナーをご紹介します。

来賓の挨拶

RI第2660地区ガバナー

岩田 宙造



みなさま、こんにちは。お天気も回復してまいりました。きっとこれから秋晴れが続くものと思っております。本日はロータリー青少年指導者養成プログラム、秋のライラに、500名を超すたくさんの方のみなさまのご参加をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

ライラは、1971年に国際ロータリーによって正式に採用され、ロータリーの奉仕のなかでも顕著かつ急速に発展しているプログラムの一つでございます。私たちロータリアンは、みなさん若い人々が、これからの時代を背負う指導者として、地域社会のために奉仕をおこなう模範的な市民としての資質を伸ばしていただくことを期待しております。

RI会長、ウィリアム・B・ボイド氏は、新しく強調事項といたしまして、「ロータリー家族」というのを加えておられます。そのなかで、青少年のためのプログラムの重要性を強調しております。「あなた方若者たちが、私たちの未来です」ということで、これはサンディエゴの国際協議会のときに話され、また書きものにもなっております。私たち2660地区といたしましても、このライラプログラムに関しまして、積極的に対応しているつもりでございます。

このたびは、大阪そねぎきロータリークラブがホストとして学校法人大阪成蹊学園のご協力を得て、周到な準備、アイデアあふれる計画・立案によりまして、今日のライラの日を迎えております。基調講演には、国民栄誉賞を受賞されました九重親方、元横綱千代の富士さんをお迎えし、「明日を見つめる若者たちへ」と題して基調講演をいただきます。まったくライラのふさわしいお話が聞けるものと思っております。

また、パネルディスカッションでは、「なにわで活躍する女性リーダーたち」ということで、5人の女性パネリストによる貴重な討論もおこなわれると思っております。どうか、参加のみなさまには、この二泊三日の秋のライラを有意義なものにしていただきたいと思いますと思っております。

みなさんのなかから、将来ロータリアン、またローターアクト、インターアクト結成のための柱になっていただく、また、青少年交換学生、あるいは国際親善奨学生になっていただく方もおられるのではないかと考えています。今回のライラの経験を踏まえて、あなた方が責任ある有能なボランティア青少年指導者として成長され、リーダーとして率先して活躍してくださいようお願い申し上げたいと思っております。

今年度、RI会長のテーマは、「Lead The Way 率先しよう」でございます。若いみなさま方に将来の期待を込めて、開講のあいさつとさせていただきます。

また本日は、青少年活動委員会の正副委員長の方にも、お忙しいなかご参加いただいております。誠にありがとうございます。先ほど申しあげましたように、本年度RI会長の強調事項に、青少年に関するプログラムの重要性が指摘されております。どうかよろしくご配慮のうえ、ご支援のほどお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

来賓の挨拶

RI第2660地区ローターアクト委員会委員長

高橋 敏朗



みなさん、こんにちは。この三日間、すてきなライラのプログラムの学習をしていただくこととなります。

私がこのローターアクト委員長になりまして、ちょうど2年目になります。少しローターアクトのことについて説明させていただきます。

いまガバナーがおっしゃいましたように、この2660地区というのは、青少年に対して非常に力を入れております。そのなかで、ロータリーが青少年を対象にしてつくられた奉仕活動が、ローターアクトクラブでございます。ちょうどこのライラは18歳から30歳までの方を対象にしておりますので、みなさま方の歳と同じ方々がローターアクトの会員のメンバーでございます。

ローターアクトというのは、ロータリーと同じく世界中にあり、当地区は21クラブ、そして約300名弱の方々がおられます。そして、このなかの活動は、ロータリーと同じように社会奉仕、国際奉仕でございます。

少し違いますのは、個人の献身を高める、自分たちの職業奉仕についての個人の職業を高めるといってでございます。このなかの一環としてライラがございます。今回も、このライラにはローターアクトの方々が12人ほど参加しております。

特に日本人というのは、このように人の前で話をするのが非常に苦手な方が多いです。しかし、ローターアクトに入っていただくと、必ずこのように前でひとこと、ふたこと、しゃべる機会がたくさんございます。そのようにして、みなさんもしゃべれる方々になって、立派に卒業されていくということでございます。私は若い方の成長を見ていますと、このカリキュラムは間違っていないと思います。

この前、フィリピンのタガイタイで開催されたアジア大会に、三泊四日で海外研修に行っていました。この2660地区からは29名が参加しました。ここで、非常によかったことは、民族部門で2660地区の方が優勝されたのです。やはり2660地区のローターアクトの人たちは、絶えず勉強して、自分たちの研磨に励んでおられると、私は思っています。

このライラを通じまして、もしこのローターアクトに入ってやろうではないか、という方がおられましたら、ぜひ推薦されて来られたクラブ、もしくは参加されているローターアクトの人たちに言っていただければ幸いです。

最後になりましたが、泉青少年委員長、ならびに今回のホストをしていただきます大阪そねぎきロータリークラブのみなさまには、貴重な時間をいただきまして、ありがとうございます。

■ 基調講演

■ ■ 「明日を見つめる 若者たちへ」

講師 九重親方

(元横綱 千代の富士)



進行役 山本文郎アナウンサー

かつて横綱・千代の富士として華々しく活躍され、現在は多くの後進の指導にあたっていらっしゃる九重親方から、力強いメッセージをいただきました。会場では、お話に先だって親方の現役時代を中心にした名場面の数々をVTRでご紹介。講演は、古くから親交のある山本文郎アナウンサーとの対談形式で進められました。

■ ■ 相撲嫌いの少年

山本 いまビデオを皆さんに見ていただいて、拍手とかため息とか、私も含めて最後はちょっと涙ぐんだ方もおいでだったようです。親方、そもそも小さいころからお相撲は好きだったのですか。

九重 いや、大嫌いでしたね。人前で裸になってケツを出して。こんな恥ずかしいことはないと思っていました。

山本 では、小さい頃はどんなスポーツをなさっていたの。

九重 中学のころはバスケット部に所属していて、陸上の大会があると、走ったり、跳んだり、投げたり。そして、バレーの試合があるとバレーに出てくれと頼まれていました。

山本 万能だったのですか。野球はしなかったのですか。

九重 野球と相撲だけはしなかったのです。野球というのは、自分のところにボールが来ないとヒマでしょうがなかった。じゃあ、ピッチャーをやればどうかということ、これも疲れるなあ。

山本 そういう少年が、なぜお相撲の道に入ってきたのですか。

九重 一言で言えば、人買いにあったという——その頃は、スカウトのことを人買いって言っていたわけです。ご存じかと思いますが、僕は千代の山と同郷なのです。

山本 そう。親方は、北海道松前郡福島町という町のご出身ですね。日本で一つの町から二人も横綱が出たというのは、親方の出身地だけですよ。福島町には、「横綱千代の山・千代の富士記念館」というのが建っていますよね。私も以前にうかがったことがあります。

九重 その千代の山の知り合いの方が僕に目をつけ

〈ビデオ上映〉

- 第58代横綱千代の富士 最後の土俵入り
- 昭和54年3月・7日目 播竜山戦 右肩脱臼
- 昭和55年3月・6日目 貴ノ花戦
- 色紙に手形を押す千代の富士関
- 昭和56年1月・優勝決定戦 北の湖戦 初優勝
- 第58代横綱に昇進
- 昭和60年1月・千秋楽 若島津戦 2回目の全勝優勝
- 昭和63年9月・14日目 旭富士戦 通算38連勝 25回目の優勝
- 平成元年3月場所・14日目 大乃国戦 27回目の優勝を決めるが左肩脱臼
- 平成元年7月・史上初同部屋横綱同士の優勝決定戦 北勝海戦
- 平成元年9月29日 国民榮譽賞受賞
- 平成2年3月・7日目 花ノ国戦 1,000勝達成
- 平成2年11月・14日目 旭富士戦 北の湖と並ぶ804勝タイ記録に
- 平成3年5月・初日 貴花田戦
- 平成3年5月14日 引退会見
- 断髪式

たのです。身体が大きくスポーツ万能な子がいて、頭もまあまあじゃないかと。そして、スカウトマンが私のところに訪ねてきたのです。それから、間もなく千代の山さんも来られて「おお、いい身体だ。お相撲に入らないか」と誘われました。そこで私は、すぐに嫌だと断りました、さっきも言ったような理由で相撲が嫌いだったから。そして、その日は「じゃあ、また来るわ」とあっさり帰られたのですね。そうして、翌日またやって来ました。

それで、また相撲部屋に勧誘されるのかと思って構えていると、全く相撲の話はしない。うちが漁師の家なので「いま、漁では何が獲れますか」とか、そんな世間話のようなものを30分くらいしてから「じゃあ、私はもう帰るけれど、どうだ、きみも東京に行かないか」って言われました。そして、その次の一言が決定的だったのですよ。

山本 何て言われたのですか。

九重 「飛行機に乗せて、連れて行ってあげるから」って。それを言われた途端「はい」って返事しちゃった。とっても素直な子ですよ。その場で「はい、行きます」と口から出てしまい、その後で両親や姉と家族4人の家族会議です。

その時、親父は「おまえも15歳だ。もう自分で将来を考えることができるだろう。おまえに任す」と言いました。そして、おふくろと姉は「そんな苦労するところに、自分から行くことはないじゃないか。たいへんだよ、つらいよ」と反対しました。でも、私の頭には、そんな反対の言葉なんて一つも入ってこないのですよ。相撲部屋に入門する以前に、東京に行ける、飛行機に乗れる、すげえじゃねえか、と舞い上がっていましたからね。

その昭和45年当時は、町で一番偉い町長が年に1回飛行機に乗るか、乗らないかという時代。そういう中で、たった15歳の子供が東京に行くだけで飛行機に乗れるのだと、これは行くべきだろうという単純な考えで「じゃあ、行きます」と言ってしまったのですね。

山本 いかがでしたか、行ってみて。

九重 その頃は、まだプロペラの飛行機で函館空港から羽田までほんとうにふわふわする、そんな気持ちで、生まれて初めて飛行機に乗った。そして羽田から、浅草の側にある千代の山の部屋に着きまし

た。

そして部屋に入った瞬間、俺はちょっと間違ったところに来ちゃったなと思った。力士を見ただけで、とにかくこれは俺の来るところじゃないなと。不安で、何か心配になったのですね。私が中学3年生のときです。今は義務教育を終えてからでないダメですが、その頃は中学に在学中でも力士になれた時代。

そんな子供でも、とにかく最初はお客さん扱いでね。1日目は食事が一番にさせてくれた。これは何ていい世界なのかなと。ちゃんこも生まれて初めて食べて、おいしいなあこんな生活いいなあと思いました。

ところが、その翌日、初日と同じ調子で自分が最初に食事を取れると思っていると「おまえ、何やってるんだ!」と先輩に言われました。「おまえが一番最後だよ」と。本当に初日だけだったのですね、お客さん扱いしてくれたのは。あとは相撲の強い順番というか、番付順というか、部屋の中の生活そのものが強い順番なんです。ですから、部屋の中でも互いに見えないところで競争しながら、自分がどういう立場になったら早くご飯が食べられるのか、お風呂に早く入れるのか、そんな目標がいっぱいあるのですね。

山本 帰りたい、やめたいなあと思われたことはなかったですか。

九重 部屋に入門して数日したら、もうホームシックですよ。なにしろ中学3年生で子供でしたからね。クスンツとなって帰りたいなあ、と強く思いました。でも、帰り方はわからないし、お金もたくさん持っていませんでした。今も当時も同じですが、やっぱりつらくて相撲部屋から逃げちゃう子もたくさんいた。私の場合も、東京に来るにあたってはお金は持たせないようにと親に伝えてあったそうです。飛行機で来たから、帰りの道筋もわからないだろうと。

部屋で暮らしていて、寂しくなると親のことを考える、家のことを考える。すると、ちょっと待てよ、自分がここを逃げ出したら、自分だけの問題じゃない。やっぱりいろいろなところに迷惑がかかる。じゃあ、辛抱してやっていくことが、自分の道だということをやはり思いましたね。

■ 弱点を克服して

山本 たいしたものですね。そんな年齢で自分から目標を持ってやるというのが、素晴らしいと思います。先ほどビデオでご覧いただいたように、親方が成し遂げた53連勝と通算1,045勝はまだ不滅ですよ。でも、途中で肩を脱臼されましたでしょう。それも、何回も。

九重 通算で左肩が10回、右肩が3回ですね。最初に脱臼したのは左肩だったのですが、その時は簡単に元に戻っちゃった。ですから、たいしたことないなど、自分でもそう感じて動かしていたものが、そのうち脱臼するのが癖のようになってきて…。肩に負担のかかる相撲を取っていたということもあって、このままではいけないと、やはり自分で気が付いたのですね。

山本 よくご自分の弱点を克服しましたね。

九重 左肩ばかり脱臼していたのが、ある時、右肩まで脱臼してしまったということで、ああ、俺の相撲人生はもうこれで終わりかなと思ったのです。でも、よくよく考えてみて、ちょっと待てよと。これで辞めるわけにはいかないなど。1回しっかりとケガを治して、それで土俵に立った結果で決めよう、という気持ちになりました。そしたら、何とか切り抜けられた。

それと同時に、いままでと同じような相撲をとっていたらまた脱臼に悩まされるだろう。土俵に上がるのであれば、自分のそれまでの相撲の型を変えて、肩に負担をかけないような相撲を取るのがベストだろうということに思い至りました。

ということで編み出したというか、自分で考え出した型というのが、横綱になってからも次々と勝っていった、左まわしを取って右を差し込んで攻めて押す相撲です。それからはもう、自分の信じる道をただただ、まっしぐらでやってきましたね。

山本 肩は手術をされたのですか。それとも治療で克服したのですか。

九重 医者からは、手術をしたら簡単に脱臼しなくなる。でも、その回復の期間が半年以上かかると言われました。しかし、大相撲は年に六場所ですから、半年という三場所も休むことになる。番付もどん底に落ちてしまいます。そんなことはとてもで

きないと思いました。

それなら、弱い所のまわりに筋肉のよろいをつけるような鍛え方をしていけばいいんじゃないかということになったのです。そして、いろいろ考えた結果、皆さんご存じの腕立て伏せという運動が肩に筋肉を付けるには最適ということになりました。「腕立て伏せを何回くらいやればいいですか」と主治医に尋ねたら「そうだな、まあ500回もやっていたらいいか」と言われました。

山本 一日に500回？ 私なら、10回もできませんよ。

九重 でも、脱臼すると本当に痛い。だから、もう痛い思いをしたくない。そして、その痛みを避けるためには鍛えるしかないわけです。最初の頃は、とにかく30回は続けてできる。でも、それ以上になると疲れたり、腕が痛くなったりする。そんな私の側に主治医が立って見ていて一言声をかけるんですよ「痛いよな、脱臼」って。その脱臼という言葉聞いた瞬間に、俺はもう脱臼したくない、痛くなるのは嫌だと思う。じゃあ、どうする、頑張らなきゃいけないんだと教えてくれているのですね。

山本 どのくらいで効果が出たのですか。

九重 最初は痛みがいっぱいでしたが、1、2週間たつてくると、力の配分がわかってきてスムーズにできるようになってきた。そうして1カ月、2カ月たつても何の変化もありませんでした。ただもう毎日、腕が痛いだけ。それを半年続けてやっても全然変わらなかった。効果が見えないのなら、もう辞めようかなと思っていると、今度はもう一人の自分が出てきて「おい、ちょっと待てよ。もったいないだろう、いままでやってきたんだよ。痛いよな、脱臼」と心の中でささやく。すると、よし、やっぱりやっていこうと思ひ直す。そんな繰り返しでした。

それが地道に1年近く鍛えていると、ある時、まわりの人が「千代の富士、ちょっと肩に筋肉がついてきたな」って声をかけてくれたのです。これはうれしかったですね。そう言われてから自分でも鏡を見てみる。すると、やはりふっくらしてきたのですよ。いやあ、あの時は本当によかったなと思いましたね。そういう中で相撲の型も変えながら、身体にも筋肉がついてきて前向きになってきたわけですね。

山本 なるほど。自分の弱点を克服なさったわけですね。

■ 勝負の世界に生きて

山本 それで、現役時代の1,045勝という白星の数、そしてまた53連勝という連勝記録。それよりも一つ、僕の頭が下がるのは、同点決勝という場面。親方は、全部で6回優勝決定戦をやっているんですよ。歴代で一番優勝決定戦の数が多いのは、たしか貴乃花だったかな。合計10回やっています。だけど、貴乃花はそのうち5回は負けているのです。かつて歴史に名を残した大鵬は7回やっている。でも、そのうち1回負けているの。同点決勝を6回やって、全部勝っているのは親方ただお一人なのですよ。それだけ勝負強いということなのでしょうね。

九重 大相撲は、優勝、準優勝とありますが、優勝した者だけが現金をもらえるんです。現在は幕の内最高優勝で1千万円なのですね。僕らの頃は、優勝金額が300万円でした。スポーツや勝負の世界は同じかもしれませんが、とにかく相撲では勝って帰ると、負けて帰るのでは全く違う。優勝決定戦まで行って負けたら、裏から寂しく浴衣を着て帰らなきゃいけない。でも、勝ったら紋付きを着て華々しいパレードの車から手を振って帰れます。これだけ天と地ほどの差があるのです。終わって家に帰ったら、かみさんと子どもが指をくわえて待っている。とても手ぶらじゃ帰れないなあ、と思うわけです。それが現実ですよ。

思えば、一番最初に体験した優勝決定戦で、いろいろなことを勉強しました。その時にわかったことがたくさんあったから、その後につながっていった。僕は、このことが本当に大事だと思うのですね。

山本 その6回の闘いのなかで、弟弟子の北勝海とやった一番。同部屋の横綱同士の大一番でしたが、あれはご本人もやりにくかったでしょうね。

九重 できればやりたくなかったですよ。彼と僕は歳が8歳違う。けれども、互いに刺激しあいながら急速に相撲の力をつけてきて、そして同じ横綱の地位まで上がってきた二人だった。稽古場では、一緒に組んで何万回も稽古していました。そういう中、本場所で優勝決定戦を闘うというのは、ほんとうに辛い。同じ部屋ですから、朝も同じ時間に起きて、寝起きをともにしていますから、本番では互い



に目が合わないんですよ。正直に言って、罪なことをさせてくれるな、そんな心境でした。

山本 でも、勝負は勝負だものね。

九重 あのときは誰が見ても恥ずかしくないような相撲を取ろうと、お互いに臨んだと思うんですよ。私も展開を考えて、離れて取ったら北勝海、まわしが取れたら自分の勝ちだなと、そういう自信のようなものがありました。

そうして立ち合い、離れて、自分が組み止めて、最終的には右側の上手出し投げで勝ったのですが、普段だったら「やったあ」と素直に大喜びするのに、その瞬間の一番に対しては、ああ、悪いことをしちゃったなという気持ちでいっぱいでした。

山本 先ほどのビデオにもあったと思いますが、断髪式の留めばさみについて、少しうかがえますか。

九重 ええ。師匠が最後に留めばさみを入れますが、その前に父がハサミを入れてくれました。正直言うと、うちの親父もあの時に初めて実際に私の横綱姿を見たのです。

山本 それまで一度もお相撲を見に来られなかったのですか。

九重 ええ。一応、私が家庭を持ってから毎年、暮れからお正月にかけて父を呼ぶんですよ。1月場所は第2週くらいから始まりますから、それまで親父もゆっくりしていて「ここにいる」と言うのですけれども、決まって相撲が始まるころになると「もう帰るよ」と帰ってしまう。

おふくろも私の相撲を見るのが苦手だったようで

す。北海道の自宅で相撲を見る時も、親父は神棚にろうそくを上げてテレビの前に座る。相撲を放映する時間になると、おふくろはいつも「とても見られない」と台所へ行ってしまいますのです。それで私の一番が終わって「勝ったよ」と家族が台所のおふくろに声をかけると、「どれどれ」とテレビの前に座って見ると。そんな両親でした。

山本 VTRでもう一度というのがあるから。

九重 ビデオなら、勝ったらもう負けなからね。いくら見ても機嫌がいいわけですよ、安心して見ていられますから。私が横綱になってからは、1年に10回負けるか負けなからでした。それでもまだ親からの信用はなかつたんじゃないですかね。

山本 だけど、親孝行をされたじゃないですか。31回も優勝して、連勝記録も作って、同点決勝も全勝ですものね。ところで、断髪式でまげを切ったときは、どんな心境だったのですか。

九重 これまでにいろんな関わりのある人が土俵に上がってはさみを入れてくれる。そういう中で、いろんな思い出が走馬灯のようにかけめぐって、楽しかったりシュンとしたり。そして、最後の留めばさみは力士のけじめですから、これで現役生活が終わり、また新しい一歩なのだという、そんな気持ちでした。そして、じっと座って観念したような心境で留めばさみを入れていただきました。

いざ、まげがなくなってみると、それまでの現役生活の重さ、横綱の地位の重さ、いろいろ頑張って無理をしてこらえてきたものが、ふっと軽くなりました。それから整髪をして、パーティ会場に行くのですが、なんか頭が寂しいな、寒いなど。帽子を脱いだ時のような、ちょうどそんな感じでしたね。

■ 稽古なくして前進なし

山本 あの^{おおいちよう}大銀杏というのはいつから？

九重 十両からです。一人前になると大銀杏を結って土俵に上がれる。まずこれが最初の目標。全く違うのですよ、十両になると。大銀杏を結って土俵に上がれるだけではなく、立派な化粧まわしもできる。繻子の締め込みで、自分の好きな色を選んでいいんです。なんととっても、給料も一人前にいただけますから。

山本 すると、十両に上がったときの喜びというの

は、すごいものですか。

九重 そうです。それまで我慢して辛抱してやってきて本当によかったと思える瞬間です。同時に、もっといい生活、もっといいことをしたい、と欲が出てくる。それなら、もっと一段ずつ上がって頑張る幕の内に上がろう、小結に上がろう、と目標が向こうからどんどん来てくれる。

山本 それを達成するために稽古をするのですね。

九重 そうです。もう、稽古なくして絶対に前進はないです。現在、あれだけ強い朝青龍でも、やはり場所前にしっかりした内容の稽古ができないと、その場所のリズムが狂う。やはり負けが多くなるわけです。だから調子が悪いと、よし、次の場所は稽古を積んで、しっかりと場所に臨まなきゃたいへんだとなる。これは、どんなに強い力士でも同じですね。

山本 出稽古とって、よく他の部屋に稽古をしに行くでしょう。親方も出稽古はされましたか。

九重 はい。私は、北勝海が出てくる前は、稽古相手が同じ部屋にいなかった。稽古の相手があまり下の者で力が違いすぎてもいい稽古にはならない。だから、私も自分よりちょっと力のある、実力が上の人を選んで他の部屋に出向いて稽古していました。出稽古というのは、どこの部屋へ行ってもいいのです。こちらから行くと「はいどうぞ、いい稽古をして帰りなさい」と言ってくれるのです。

山本 じゃあ、本人の意思でどんどん出向いていいのですね。

九重 そうです。ですから、いま朝青龍があれだけ頑張っている。そして大関がいっぱいいるけれど、彼らは自分から進んで朝青龍のところに稽古をお願いしますと行ったことはない。だから、だめなのです。うちの部屋の千代大海でも、朝青龍の部屋とは5分もかからないところにいる。本人は言い出さなかったですが、僕は彼を連れて行きました。でも、二日ともたなかつたね。

山本 なぜですか。

九重 朝青龍が強過ぎるのですよ。ただ、横綱と大関というのは、番付で隣り合わせにいますよね。そんなに違わないはずなのです。しかし、今の関たちは朝青龍と稽古をしないから、その相撲の速さやうまさを肌で感じられない。そうでなくてはダメな

のにね。相撲というのは、いくら頭で覚えても身体で覚える。これをしないと、力の差は縮まっていかないと思う。そう考えると、僕と北勝海との稽古はもう、たいへんな勝負でしたね。

山本 火花が散っていた？

九重 真剣さはもちろんですが、お互いに本場所以上の稽古ができた。これは、お互いが強くなっていく相乗効果ですね。そのおかげで二人ともいい方向に行けたと思うのです。

とにかく北勝海はずいぶんと年下ですけど、そのやる気だけはすごかった。気迫が違って、何度か向かってくるのです。ぶつかって、もう来ないだろうと思っても、ゲエゲエ言いながらも「お願いします」と食らいついて来る。すると、こっちも本気で応えなきゃいけない。「ようし」とやっているうちにお互いに強くなれる。そんな関係でしたね。

山本 大相撲は、最近、外国にもずいぶん出かけて公演をしますでしょう。そのお話を少し聞かせていただけますか。

九重 私は、全ての公演について行きませんが、ラスベガス公演には行きました。あの街は、非常に興奮する人間が多いところです。カジノで興奮して、相撲を見て興奮して。やはり相撲をとっているほうも面白いですよ、あれだけ乗ってくると。観客が足を鳴らしたり、言葉で声援を送ってくれたりね。やはり、感情表現がストレートで実にはっきりしていました。

いまはもうどこの国に行っても、各国のスポーツはテレビで見られる時代だから、よく知っているのです。相撲のことも理解している。それでまた、アクションの大きい上手投げとか、背落としたりとか、ああいうワザをやるとやはり拍手が違います。

山本 そうですか。いま、外国人力士が注目されていて、53の部屋があって、それぞれ一人ずつくらいモンゴルから来た人がいると聞きます。これから先は、どうなると思われますか。

九重 一応、一部屋につき一人という枠があるので、その範囲内でやっていくと思います。僕らの頃は、小錦をはじめ外国から昨日今日入ってきたやつに負けるかと思って頑張ってきた。でも、今の子というのは、やはりあまり苦労しないで勝ちたいな、いいポジションに就きたいなと、そんな子が多いの

です。

それと、ケガがとても多い。なぜかという、相撲をする以前に自分の身体を鍛えてないから。だから、稽古をする前に、まず自分のしっかりとした身体をつくって、それからだと思いますね。

山本 今は豊かすぎるのです。部屋に入門してからすぐに逃げて帰っちゃうとか、そういうこともあるのですか。

九重 逃げてしまう入門希望者もいっぱいいますよ。最短では、3時間くらいで居なくなったことがあります。

「入門させてください」と、わざわざ向こうからやって来て、こちらあまりいいことばかり言わない。とにかくたいへんだぞと言いつけさせます。力関係もわからない、相撲もしたことがない、ただ身体がでかいだけで入門したらたいへんだよ、と。まず生活に慣れることからという中で「いや、大丈夫です。うちの息子は大丈夫です」と、親がドンと胸を打っていくところの息子ほど、実際は頼りないことが多いですね。

山本 でも、3時間とはあまりにも短い…。

九重 朝、稽古場に来て、じっと見ているんですよ。先輩力士がバシン、バシンとやっているところを見て、本人は何かもぞもぞしながらトイレに行ったりしている。それで、しばらくたつてまた目を向けると「あれっ、いなくなったね」と。そのまま帰っていなくなっちゃう。そして、二度とやって来ませんね、そんな子は。相撲の厳しさを実際に見て、恐くなるのでしょうか。稽古を見るとひしひしとそれがわかるから。

山本 親方のところにも若い力士がいらっしやいますよね。僕の夢は、九重部屋から横綱が誕生することなんですけど、いかがでしょうか。

九重 それはもう、私自身にとっても成し遂げたい目標ですね。でも、残念ながらいますぐというのは実現しないかもしれない。でも、いつかは、という想いはあります。

山本 そうですか。でも、親方ならきっと大横綱を育てて相撲界をもっと盛り立てていただけると期待しています。今日は、本当にありがとうございました。

九重 ありがとうございました。

国際ロータリー第2660地区 2006年 秋のライラ (Rotary Youth Leadership Awards)

初 級

10月7日
(土)
【1日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム	フィールド
12:00	受付開始	大阪成蹊大学
12:30	開講式	大阪成蹊大学
13:00~14:00	基調講演	大阪成蹊大学
14:20	貸切バスでびわ湖パレイに向けて出発 バス車内で自己紹介などアイスブレイク	
16:00	びわ湖パレイ着 ゴンドラで山頂へ移動、山荘にチェックイン ※上級はそのままキャンプ場へ移動(最終日閉講式で合流)	びわ湖パレイ
17:00	オリエンテーション(10~15分)	研修センター
17:30	夕食準備	山荘前広場
18:30	夕食(バーベキュー)	
19:30~20:00	夕食片付け	
20:00~20:30	明日以降のプログラムの説明	研修センター
20:30~22:30	入浴&フリータイム	
21:00	班長会議	山頂駅内レストラン
22:30	就寝	山荘泊

10月8日
(日)
【2日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム	フィールド
7:00	起床	
7:30	朝食	山荘レストラン
9:00	仲間作り(ASE)ハイク出発 ※課題ゲームハイク	
12:00	昼食(お弁当)	野外
午後	仲間作り(ASE)ハイク	
15:00	キャンプ場に到着	
15:30	夕食準備 夕食コンテスト開始 チーム毎に食材を確保し、炊事	キャンプ場炊事場 野外炊事
18:00~	夕食	
19:30	キャンプファイヤー ※スタンツなどチーム毎に出し物	キャンプ場広場
20:00	リフトにて山荘へ	
20:30~22:30	入浴&フリータイム	
21:00	班長会議	山頂駅内レストラン
22:30	就寝	山荘泊

10月9日
(月・祝)
【3日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム	フィールド
7:00	起床	
7:30	朝食&撤収準備	山荘レストラン
9:00~10:30	なにわで活躍する女性リーダーによる パネルディスカッション	研修センター
10:45~11:30	ふりかえり	たたみ大広間
11:30~12:45	昼食	
13:00	閉講式	研修センター
14:00	解散 順次ゴンドラにて山麓駅へ 山麓駅から志賀駅までバスにて搬送	

国際ロータリー第2660地区 2006年 秋のライラ (Rotary Youth Leadership Awards)

上 級

10月7日 (土) 【1日目】	時 間	プ ロ グ ラ ム	フ ィ ー ル ド
	12:00	受付開始	大阪成蹊大学 大阪成蹊大学 大阪成蹊大学
	12:30	開講式	
	13:00	基調講演	
	14:20	貸切バスでびわ湖バレイに向けて出発 バス車内で自己紹介などアイスブレイク	
	16:00	びわ湖バレイ到着 ゴンドラとリフトを乗り継ぎキャンプ場2に移動 仲間作り(ASE) 野外ゲーム	野外炊事 地図コンなど テント泊
	17:00	夕食食材配布 夕食	
	19:00	サバイバルテクニック説明	
	20:30	フリータイム	
	22:30	就寝	

10月8日 (日) 【2日目】	時 間	プ ロ グ ラ ム	フ ィ ー ル ド
	6:30	起床	野外炊事
	7:00	朝食&テント撤収	
	9:00	キャンプ場出発 武奈ヶ岳トレッキングツアー	野外炊事
	12:00	八雲ヶ原着 昼食	
	16:00	グループ別プログラム 夕食作り 夕食	
	19:00	全体ミーティング グループ別活動	ピバーク
	22:00	就寝	

10月9日 (月・祝) 【3日目】	時 間	プ ロ グ ラ ム	フ ィ ー ル ド
	4:00	起床 朝食 撤収	野外炊事
	5:00	グループごとに出発	
	6:00	武奈ヶ岳山頂着 全員集合	本部
	7:30	下山(坊村方面)	
	10:00	ピックアップ	
	11:00	びわ湖バレイ着 昼食 ふりがえり	
	13:00	閉講式	
	14:00	解散 順次ゴンドラにて山麓駅へ 山麓駅から志賀駅までバスにて搬送	

■ パネルディスカッション

■ 「なにわで活躍する女性リーダーたち」

■ パネラー

井田 保子 株式会社サロン・ド・ボーテ・ヤスコ 社長
岩本 洋子 岩本法律事務所 代表
岸本美智子 OFFICE岸本美智子 代表
長尾 依子 株式会社社員教育総合研究所 社長
山田芙美江 山田晒染工業株式会社 社長

司会 中谷 行道

大阪を舞台に様々な分野で活躍されている5人の女性に、お仕事のこと、若者へのメッセージなどそれぞれの視点から貴重なご意見をいただきました。

司会 ここにいらっしゃる5人の方々は各々にご活躍されていますので、お名前やお顔をご存じの方もおられるかもしれません。ですが、あらためてそれぞれのお仕事の内容を含めて自己紹介をお願いいたします。

山田 おはようございます。山田晒染工業と言いまして、晒というのはニットを晒す、また織物の生地を染める染色。そういう仕事をしております。私が三代目の社長で、祖父、父、私ときております。そして、普通の家庭もあり、33歳、30歳の息子が2人と19歳の娘、3人の子どもがおります。家庭生活と社長業に加えて、官庁関係、警察、消防などに関係した地域活動もいろいろとさせていただいています。

長尾 おはようございます。私は、大阪で22年前に創業いたしました社員教育総合研究所という、企業の管理職研修をメインとした会社をしております。専門は組織論とあって、課長さんや部長さん、社長

さんなど会社の管理職の方のお仕事に関するマネジメント研究をしております。

岸本 私の会社は、法人では株式会社岸本総合リサーチと申しまして、俗に言う興信探偵業をやっております。私自身も、約35年のキャリアを持つ「なにわの名探偵」として新聞紙上で見られた方もあるかもしれません。この道一筋ということで、未だにがんばっております。いろいろな方のご相談を承って、私も勉強してまいりました。今日はライラ委員会の一員として、こんなにたくさんの方に集まっていたいただいて本当にうれしく思います。

岩本 私は27年間、大阪で弁護士をしております。私が弁護士になったころは、女性弁護士は大阪で40人くらいしかいませんでした。いまは、400人くらいになっております。

何か一大決心をして弁護士になったのかということそうでもなく、大学を卒業するころにオイルショックがあり、当時は4年制大学を出た女性には就職口



がなかったのです。いままで私にノートを借りにきて、学校へ来ずに麻雀ばかりしていた男たちが、どんどん一流企業に就職していくのに、女性には全然就職がなかった。これはいかん、資格を取らないと仕事がない——そういう甚だ不純な動機で弁護士になりました。テレビにも最近、よく弁護士が登場しますが、本物の弁護士はテレビに出演している方たちとは違って、たいへん地味な仕事です。

井田 サロン・ド・ボーテ・ヤスコという美容院の会社をやっております。私たちの時代は、女が職業を持つということは非常に難しい。難しいだけではなく、親が賛成しない時代でした。それをはねのけ、蹴散らして25歳で独立し、今は65歳。40年間、この道一筋ですけれど、まだまだやりたいことがいっぱいございます。

■ 独立・起業の想い

司会 いまも少しお話がありました。皆さんが実際に独立される時などにはいろいろとご苦労があったと思います。社長に就任されたとき、独立されたとき、あるいは起業されたとき。そのときの夢とか理想や不安もありましたでしょう。当時の思い出も含めてお聞かせいただきたいと思います。

井田 私がリーダーになった最初は、勤めている会社で責任者になったときでした。勤め先は、日本の美容業界で一番大きな組織をもつ会社でした。その会社のお店で、有能な責任者を何人送り込んででも売上げが上がらないところがあり、大阪弁で迫力のあるヘンな女の子がいる、ということで社長がやけくそで私を店長として行かせたのです。そのとき、私は21歳でした。

私が店に入ってびっくりしたのは、50人の従業員がいて、みんな動きがだるい、だらしない中年の女ばかりに見えたこと。それでまず、彼女たちを順番にクビにしていきました。ところが、会社から幹部がやって来て「そんな簡単に辞めさせてもらったら困る。ここは人が集まらない店だ」と言われました。それで、私が自分で人を集めなければ、と母校の山野美容学校にとんでいき、とにかく人をまわして欲しいと頼み込みました。

そのようにして自分の責任で人を雇ってみてわかったのは、いくらベテランが揃っている店でも売上げに繋がらないということでした。とにかく一生懸命な姿がお客様にわかってもらえれば、成績につながる、売上げを上げるのだと。つまり、技術の前

にお客様の心に感動を与える仕事をすればいいのだということ、私は初めて学んだのです。

岸本 私は本来、この仕事が好きで学んだわけではありません。若い頃は、スチュワーズとか旅館の女将とか、そういったお仕事に憧れていました。正直言えば、この仕事については、やりながら徐々にのみ込んでいったというのが本当です。主人がもともと警察官でしたので、そういうこともあって、一緒に今日まで歩いてきております。

創業したときも、特別に思い出はございません。とにかく毎日、毎日、時間に追われ、仕事に追われ、またお金に追われるような状況でやってきました。探偵というのは、そんなにもうかる仕事でもなく、たいへんな仕事です。若いときは、本当に寝る間も惜みず、たとえ寝ていても24時間体制で仕事をしていました。みなさんもこれからいろいろな苦労があると思いますが、どんなことでもチャレンジして、立派な大人になってほしいと思います。

山田 いまのお二方のお話、努力で道を切り開き努力されて、素晴らしい人生ですね。それに比べて私は、生まれながらにして工場や会社がありました。会社は大正5年からですので、今年で創業91年になります。

3人姉妹の長女として生まれた私は、祖父が工場を築いたときの姿を見て、父がそれを受け継ぐ姿を見て、5歳くらいのときから後継者として育てられました。祖父母や両親にも会社の方たちにも後継者として見られ、皆さんの年齢くらいのときには、けっこう反発もしていました。なりたくないというのではなく、何か嫌だったのです。自分の人生が決められていることが。ただ、ありがたいことに、母が何でも好きなことをしなさいと私をはげましてくれたのです。どんどんやりなさいと。ですから25歳で結婚するまでは、そこまでやるかなというくらい、いろいろなことに興味をもって遊び回りました。

そして、25歳で家庭をも



株式会社サロン・ド・ボーテ・ヤスコ
社長 井田 保子



OFFICE岸本美智子
代表 岸本美智子

ち、子育てをしながら仕事もこなしていきました。社長に就く時も夫婦で話し合いをして、主人のほうは「僕が工場を見て、営業をして支える」と言ってくれました。文字通りの二人三脚ですね。男女どちらがトップになろうと、支え役になろうと、それぞれの資質に見合えばそれでいいと。けっして私がおごって社長になったわけではなく、この企業をどのように育てていこうかと思ったとき「ああ、そのカタチが一番いいだろう」と互いに理解し合ってきました。ですから、男女ともに自分に合ったことができること、それは人生にとって素晴らしいことだと思います。

長尾 私は学生時代に父を亡くし、昨日まであった収入が途絶えてしまう。財産はあっても収入がない。八つ下の弟を育てなければいけないということで大手銀行の入社試験を受けました。本当は落ちていたかもしれないのですが、その最終役員面接のときに一人の専務さんが「ああいう人を入れなかったら、うちの銀行の将来はない」と言って入れてくださったそうです。それをお聞きしたのは、入社して1カ月後くらいだったものですから、その人の顔をつぶしてはいけないと思って一生懸命に仕事をしたのです。

その数年後に、「君は管理職になれ」と言われた。女性はじまって以来の総合職になれと銀行から言われたのです。当初は総合職と言っても何にも知らなくて「総合職とは将来課長になる人のことだ」と言われて、ええっ！と思いました。

ところが、いろいろ調べて勉強してみると能力を体系化したものがなかったのです。そこで、そもそも会社をつくるもとになった理論、能力を体系づけたものができたのです。まさかそれで会社を起こすとは自分でも思わなかったのですが、創業の原点はそこでした。

岩本 私も大学に行っていたときは、社会のシステムがよくわからなかった。中学も高校も大学も男女共学ですから、学校の成績さえ取っていれば大きな顔をしていられたわけです。けれども就職する段になって、日本国の仕組みがわかりました。男の人は私より勉強ができなくても、いい会社、大会社に入れるのだと。女の子は、同じ大学で同じように勉強しても就職がないという現実。仕事を求めたとたんに、日本国のシステムを察知したのが、私のルーツです。

それで司法の道に入りまして、3年間イソ弁（居

候弁護士）をやって4年目には自分の事務所を持ったのですが、当初はとてもヒマそうにしていました。すると、同業者の男性弁護士が「ちょっと岩本さん、第一審で負けた判決がある。もう新しい考え方もできないし、どうしていいかわからへんから、やってくれへんか」と仕事を頼んでくれました。そうやって、何人かの先生から負けた事件を頼まれたのです。そういう事件を一生懸命やって、判決をひっくり返したのです。

考えてみると、男の人というのは負けた事件を同性である男性弁護士には頼みにくいのです。でも、女性には言いやすらしく、弱みを見せてくれるのです。そんな風に、独立した当初はカッコいい仕事は回ってこなくて、やりにくい仕事ばかりが回ってきたように思います。

■ 女性としてのメリット

司会 皆さん、リーダーになられるまで様々ないきさつがあったのです。ところで、いまでこそ女性の社会進出は珍しくありませんが、女性が仕事をしてはいけないという時代に仕事を始められ、あるいは独立されたいへんだったと思います。女性だから不利だったこと、有利だったことについてお話を聞かせてください。

井田 私は若い頃、女に生まれたことを呪い、男に生まれたかったと思いました。あの時代は男のほうはずっと自由に、いろいろな仕事に取り組むことができたからです。

女性が運転免許を取るだけでもたいへんで、当時は女が運転するというだけでおてんばや不良の烙印を押されてしまいます。だから、私は料理学校に行く嘘をついて、学校のない日に校庭で自動車の練習をしました。練習には、お金持ちの人の車を借りて運転していたのですが、練習中にずいぶん当てて迷惑をかけました。運転免許ひとつでも、みんなが賛成して自由に取れるという状況ではなかったのです。

でも、私は反対されればさ



岩本法律事務所
代表 岩本 洋子



株式会社社員教育総合研究所
社長 長尾 依子

れるほど熱意が湧いて、よけいやってやろうという姿勢になるのですね。ですから反対されたことは全部達成しました。むしろ反対されないと今度は気が抜けてしまうくらい。

女に生まれて損したことは、たとえば銀行のセミナーとか経営や経済の勉強会などに行きまして、男性ばかりの中で意見を求められてちょっとお話しすると「あいつは生意気なやつや」「女のくせに」と、いろいろな中傷を受けました。けれども中傷を受けると、私は強くなるわけですから、それがエネルギーに変わって逆によかったのです。

岩本 私が女性として得をしたことがあるとすれば、先ほど言ったように男の人が負けた裁判を下請けに出してくれたという点。弁護士というのは人のけんかを引き受けて、法廷へ出ている。人のけんかを引き受けるときは、やはり身体の大きな屈強な弁護士に頼みたいという本能があるわけです。自分の裁判をこんな女の人に頼んで大丈夫かと思うわけですが、頼んでみると「女の人でも結構ちゃんとやってくれるんや」とか「女の先生って意外ときっちりしているんだなあ」と見直してもらえると。そういう点で損したところも、得をしたところもあります。

それから、大阪のオーナー企業や中小企業の社長などは、「女でも頑張ってるんやね。うちの事件も頑張ってくれよ」と、意外と実質的なところがあります。

岸本 私どもは、創業当時から女性を前面に出してきました。広告に顔を出して宣伝をしたのも、近年では私どもが最初だと思います。女性だから有利な面は、ご依頼者が安心してご相談になれるところ。また、現場に出ましても女性だから入っていけない場所はないのですね。尾行にしても何にしても、男性でしたら百貨店の女性用下着売り場には入りやすいですが、女性なら男性の下着売り場であろうと入っていける。不利な点は、やはり肉体的なことです。やはり自然現象というのは男性のようにいきませんので、非常に身体を酷使して膀胱炎になることも。私も未だにいろいろな後遺症を持っています。

長尾 私は、女性だから有利・不利という記憶がなく、ただ父が家族のために命を削って仕事をしていましたから、男の人は家族を養うために本気なんだということがわかっていました。そういう人や社長様を支えたい、そして女性の私にしかできない、女性だからこそできる支え方、役に立つ方法がない

かなと考えて、最初は会社の女性社員を専門に教える会社にしようと思ったのです。

ところが、会社のトップは管理職を鍛えてくれとおっしゃるのです。岩本先生もおっしゃっていましたが、女性だから言いやすい。社長様も社内の問題点を男性のコンサルタントには言いにくいけれど、女性なら話しやすい。だから、それが有利だったのかなと思います。

山田 私は、いまお話しされた四方とは違うのですね。オギャアと生まれた時から、いまの仕事が与えられていたので女として損した、得したと感じた経験が一度もないのです。きっと両親はそのように育てたのですね。ですから社会に出て行くことも反対しない。現在、大阪ニット晒染協同組合というのがあり、大阪府下、京都、和歌山の染色工場が集まった組合です。そこで私は、組合の理事長をしています。それも過去50年来、女性のトップはいなくて私が初めてです。それでも別に問題なくやっております。

■ 若者へのメッセージ

司会 それでは、せっかく大勢の若い人たちが集まっていますので、若い諸君にぜひ伝えたいメッセージがありましたら、ぜひお聞かせください。

岩本 大学生のときは学校の成績で優・良・可とあって、可までセーフじゃないですか。単位は取れるし可ばかりでも卒業はできる。けれども、社会に出て可ばかりの仕事をする人はだめです。仕事をするときは優が求められます、絶対に。だから、こつこつと優を取る努力がいると思うのですね。「あいつはいつも適当や」と、可ばかりというのは、やはりだめだと思います。そして、私はある先輩から「上の人によく思われるのは簡単よ」と言われました。上の人にゴマをすったら、みんな上の人にはよく思われる。けれども下の人によく思われるのは難しいのよと。「下の方は上をみているから、下の方にやはりよく思われないとだめだ」と。私自身もそういう点を心がけてきました。

長尾 福沢諭吉という人はみなさんご存じですね。彼が、自分の生徒達にこう教えました。「大きなことをなしてくれ、世の中のリーダーになってくれ。



山田晒染工業株式会社
社長 山田美美江

そのときに、大きなことをする人は鄙事多能（ひしたのう）であるべきだ」と。つまり、細かいことが多能でないといけないと教えたのです。人の上に立ち、リーダーや指導者になる。私は皆さんをそういう位置づけでお話ししているのですが、大事をなす人は鄙事多能でないといけないと言いたいのです。

そういう点から見ますと例えば、今朝、皆さんがお部屋を出る時、ちゃんとベッドのシーツをたたみましたか。お部屋が散らかったままで飛び出した方、いらっしゃいますよね。鄙事多能とは、そういう細かいことの積み重ねなのです。

このセミナーに参加されたことについても、ロータリーの知り合いの方や関係者に向けて「行かせていただいてありがとうございます」とか、帰られるときも「ありがとうございます」と言える方になっていただきたいなと思います。だから、皆さんに言葉を贈るならば「鄙事多能」と「ありがとう」に尽きます。

山田 さすが社員教育のプロフェッショナルですね。私は、まったく違うことを言います。これまでの30年、公私に渡って私にも苦勞がございました。でも、一つずつ乗り越えていけたのは、母の一言があったからです。

私を産んで育ててくれた母が、私に何を言ってきたかという「あなたは素晴らしい」という言葉です。悪さをしようとか何をしようとか、結婚する25歳までに「あなたならできる。何をしようとしても、あなたならできる」と母が言うのです。すると本人は結構、本気になるのですね。それで40歳くらいになっても、まだ母が同じ言葉をかけてくれるのです。やはりいくつになろうと娘なんです。

愛なのです、世の中というのは。銀行取引にしても愛情です、これは。相手を説得するには、男女関係なく、自分の心の底から話をする。人は決して一人では生きていけない。まず産んでくださったご両親に感謝しながら、言葉には出さなくてもわが子のことをいつも心配しておられます。その気持ちを心の隅に置いて、何かするときに「両親が守ってくれている。おじいちゃん、おばあちゃんが守ってくれている」と思って、将来それを励みにし、親の愛というものの大きさを考えながら進んでもらいたいなと思います。

岸本 皆さんご存じでしょうか。私どものイメージキャラクターとして、もう亡くなられましたみやこ蝶々さんという方がいらっしゃいました。関西の芸



人ではナンバーワンだった方で、たいへん苦勞をされて人生を終えられたのですが、私は彼女が私どもの会社にメッセージを寄せてくださった、その言葉を皆さんにお伝えしたいと思います。

「人の世は、泣いて笑って名舞台」——これはどういう意味かと言いますと、人生とは、泣いたり笑ったり、いろいろなことがある、そういう舞台ですよ、名舞台ですよということを意味しております。

それからもう一つ。「女の坂道は、けわしゅうございました。つろうございました。でも、灯りも見えました。涙がすっと流れました」——そういう言葉をいただきまして、私は心の中にいまだに残っているのですが、最後の「灯り」というのは希望だと思っています。いろいろな苦勞をして辛い思いもしてきたけれど、最後には希望も見えましたという内容だと思っています。

そういったことで、若いときは、いろいろなことにチャレンジして、精神的に力強く生きていってほしいと思います。

井田 いまもいろいろな先生方が苦勞しなさいとおっしゃいましたが、苦勞というのは勝手に来ます。誰もお金を出してまで苦勞したくないですよ。しないでおこうと思っても苦勞は勝手にやって来てしまうので、とにかくそれを自分で乗り越えなくてははいけない。

ただ、買ってでもしてほしい苦勞があります。それは、こういうチームワークの中や、ライラのメンバーがいっぱいいるところなどへどんどん入って行って、もまれてほしいということ。人間関係の苦勞をしてほしい。その苦勞は、かけがえのない財産になります。人間関係の苦勞をすることで素晴らしい成功も待っているのです。自分のために働くというのは初級クラス。今度は、人のために頑張るのだ

と思いはじめたら中級。さらに、国のため、世界のためと言いだしたら、もう最高です。ロータリアンになれる。それで、とにかく、人に好かれる人になってほしい。好かれるためには、人間関係の苦勞をしなければ、人の心がつかめないわけです。好かれていたら、どんな欠点もカバーできます。

皆さんも、まだまだ未完成なのだから、上品ぶっていないで、欲しいものは手に入れる、やりたいことはやるというふうに、きっちりと意思表示ができて好かれる人になったら、必ず成功するはずですよ。

■ 参加者との質疑応答

質問者 ご結婚されている方に質問です。やはりご結婚されていたら、仕事を辞めて家庭に入ろうということにはならなかったのでしょうか。

山田 私は、家庭と仕事を両立していますから。朝4時起きをして、7時45分の朝礼までに、全部家事をします。風呂掃除、洗濯、アイロンかけから全部。それで朝礼に出まして、社員に言っているのです。「男性は得やねえ。『ただいま。風呂湧いてるか。ご飯できてるか』で終りなんやから」と。

長尾 私は、いったん完全に家庭に入りました。でも、ある事をきっかけに、家庭だけに留まらずに社会と向き合ってみたいと思ったのです。その時、私に何ができるかなと思ったら、以前に自分の組織論を確立したものがあるので、その理論を持って五つの会社に面接に行きました。その場で、年俸1千万円で契約しましょうと言われ、5社のうち4社は即決でした。それで「ああ、私の理論は通用するんだ」と気付いた。

それでよくよく考えると、子供が熱を出したといってもお勤めしていたら迷惑をかけてはいけなし、組織論という会社経営の専門家ですから、だったら自分で会社をつくろうと思いました。創業したとき初めて買ったのが、家族の下着10日分。そして、いろいろな電化製品のおかげで、家事はやって来られました。

岸本 私は、子供には恵まれませんでしたので、仕事に没頭するしか仕方がないという面もありました。でも、人生というのはいろいろなことが起きまして、仕事をしながら老人介護もいたしました。今は両親も亡くなって、その点に関してはゆっくりした面もあります。でも、明日はどういうようなことが起きるかわからないのが人生だと思いますので、そのつど、そのつど精一杯やっていけばいいと思

います。

司会 ありがとうございます。他にご質問はございませんか。はい、どうぞ。

質問者 女性のリーダーから見られて、できる男の共通点は何だと思われませんか。

山田 まずは、第一印象。私もこれまでに結構、面接をしてきたのですが、中小企業の3Kの会社ですからなかなかいい人が集まりません。面接では、やはり顔を見て私の目をパッと見る人。あっ、こいつと思う人。目を見て、その人の目はどのくらい光っているかと私はいつも見えています。

岩本 弁護士業界というのは一般的に高学歴なんですけど、できる人はやはり勘がいいと思います。頭がいいより勘がいい。パッと先を読む。この事件はこうなるなとか、この人はこんな人だなとか。人を見たり事件を見たり、世の中の動きを見るときに、理屈で考えて積み重ねて結論を出す人より、勘がいい人の方ができる人は多いみたいです。

岸本 今の時代、本当に男の子は頼りない子が多いのも本当です。女性のほうが本当に強い。だから、家庭をもっても大黒柱になれずに家の中がごちゃごちゃして、奥さんが逃げちゃったという人が多いでしょう、実際は。男性には、もっとしっかりと地に足をつけて、世の中を見つめて生きていってほしいなと思いますね。大切なのは、やはり優しさだと思います。女性というのは、男性の思いやりがあって頑張れる。挫折したときにしっかり支えてくれるような男性がいたら、ありがたいですよ、本当に。

長尾 今思うと、私は上司に恵まれていたなと思います。銀行勤めの時、最終的に私は頭取の秘書をさせていただきました。銀行で社長のことを頭取というのですけれども、私は3人の頭取さんに、一人ずつかせていただいたのです。そのお三方に共通していましたのは、すごく公平な点。損得で動かないと言うのでしょうか。

それと、公私の区別を徹底していましたね。公私混同というのをしなかった。そして、態度がなれなれしくないのです。普段、どんなにお顔を合わせる方でも、朝はちゃんと「おはようございます」とおっしゃいますし、お茶をお出したら「ありがとうございます」とおっしゃいます。そういうことは、ものすごく気分的なことでも大事なことがらですね。

司会 みなさま方、今日は有意義なお話をありがとうございました。これをもって、このセッションを終了させていただきます。

～各班の思い出～ 初級ライラ感想

●女性●空が青い画用紙なら、それには何の意味もありません。雲や光、風、いろんな要素が重なって、きれいに見えたりします。それは違うものであると同様に、同じものです。



自分が持つ立場や感情、色彩、洋服、それらをすべてはぎ取ったら、どれだけのものがあなたにありますか。私はわかりません。でもとてもすごくて、知り合ったばかりの人と一緒に朝日を見ることは、すてきな時間で、とてもうれしかったです。

●女性●私は人との出会いということ、ロータリーを通して強く感じたので、人との出会いということについて話したいと思います。

人との出会いということは、このロータリーのすべての活動においての醍醐味であると思っています。いろんな国籍の人や職業の人や、年齢が違う人と、ここまでいろいろな話をして、一緒に過ごして、時間を共有できることは、普段の生活では味わえないことだし、人とのかわりあいの少ない、いまの社会に生きている私たちには、とても貴重なことだと思います。

ここで出会った班のメンバーのみなさんや、ロータリーパパやロータリアンの方々や、このライラの参加者のみなさんと出会えたことに、すごく感謝しています。どうもありがとうございました。

●女性●私は昨日と今日と、朝早く起きて朝日を見ました。私は初めてあんなきれいな朝日を見ました。太陽のまぶしいオレンジ色の光が出てくるだけで、周りの空とか山がだんだん明るくなってきて、すごくきれいでした。大阪にいる友だちとか家族のみんなに見せたいなと思いました。

今回のライラキャンプに参加して、すごく大きな節目にふれて、たくさんのすてきな人たちに会っ

て、とても刺激を受けました。班のメンバーはみんなすごくしっかりしていて、自分のやりたいこととかをみんな持っている人ばかりで、みんなには本当に、助けてもらいました。



ライラキャンプに参加して、本当に貴重な体験がいっぱいできました。本当に参加してよかったなと思いました、みなさん本当にありがとうございました。

●女性●年齢もバックグラウンドも違う人たちが、それぞれ違うきっかけでこの合宿で出会ったことを、とてもうれしく思っています。私は普段、人に頼るのが苦手だったのですが、山登りでは3人のハンサムなチームメンバーに手を引いてもらって、甘えさせてもらいました。

みんなで朝日を見、それに感動しました。自然に調和してつくり上げた品々。自己満足でつくったチームの替え歌、夜遅くまで教えてもらったダンス、貴重な話が聞けたパネルディスカッション、久しぶりにたくさんの輝いている人たちに会い、その輝きを分けてもらいました。この2泊3日、一瞬一瞬の思い出を大切にしていきたいと思います。ロータリーのみなさん、スタッフのみなさん、すてきな機会をありがとうございました。

●男性●その3人っていうのは誰なんだろうね。気になるんですけども、今回の私が参加させていただいたキャンプでのひとことと言いますと、感謝でございます。

ここに來させていただいて、キャンプで全員でいろいろなゲームをさせていただいて、また集団生活で人と人のかかわりで、いろいろと学ばせていただきました。僕も社会人になって2年目なんですけれども、今回のロータリーのキャンプで学んだこと





は、ほぼすべて社会に役立つなど、本当に感じさせていただきました。

僕たちを支えていただいた周りのみなさまであったり、またロータリーの方々でありましたり、成蹊大学の方々、本当にありがとうございました。感謝です。ありがとうございました。

●男性●僕のテーマは「経験」です。僕は最初の日、プログラムの内容をあまり読んでいなかったの、それで参加したので、山小屋に行くということも知らなかったんです。なので半袖しか持って来ていなくて、2日目の夜なんかはすごく寒くて、やばかったです、あのときは。

メンバーはみんな一応、大学生とか20代の方ばかりなので、僕はまだ10代で高校生なので、すごく緊張しています。でも、やっぱりこのライラを通じて、年齢の差なんて関係ないとすごく感じました。

山登りではすごく気合いを入れて、思い切り走ったんですけど、すごく息が上がってきつかったです。死にそうでした。

三日間、いろいろとありましたが、このライラを通してとてもいい経験をさせてもらいました。本当にロータリーに感謝しています。ありがとうございました。

●男性●僕のテーマは「アクターと心で感じること」です。一応、ライラの活動のなかでいろいろな人と出会い、班ごとにグループで助け合いながら前へ進む、そして結果を出すことがよだけでなく、みんなに喜んでほしい、他人の喜びが自分の喜びでもある。個人としてこれを財産にして、今後のことを考えて、みんなのために頑張っていくのが大事だなと思います。今回はありがとうございました。

●男性●私のテーマは「5人の女社長」。私はパネルディスカッションの、できる男の共通点の話がと

ても衝撃的でした。私なりにまとめてみますと、目の輝き、公平性、やさしさ、責任、勘がよいの五つです。これを聞いただけでも参加した意味があるほど、とても覇気があり、説得力のある言葉でした。五つの目標を実行し、社長たちが惚れてしまうほど、できる男になってみたいです。

この三日間、楽しい思い出ばかりです。みなさん、短いあいだでしたが本当にありがとうございました。

●男性●僕はまず、初日の不安な気持ちについて発表します。

土曜日の朝、ここに来たときから、僕は不安でいっぱいでした。なぜなら、ライラに参加しなくてはならなかったです。僕はとりあえず行けと言われてただけで、何をやるのかまったく情報を受け取っていませんでした。ライラとは何なのか、謎でした。唯一知っていた情報は、千代の富士の講演会があるということだけでした。これがメインイベントだと思っていました。

しかし、これがメインイベントではないことに、すぐに気付くことになりました。

琵琶湖に着いて、たくさんの外国の方と、たくさんの知らない人がいました。僕は思いました。やべえ、英語しゃべれねえ。やべえ、標準語もしゃべれねえ。不安がより一層強くなりました。

●女性●二日目のゲームをやり始めても、不安は少し残ったままでしたけれども、フラフープを使いながら、目をつぶってゴールを目指す「ホールインワン」では、崖に落ちそうになりながらも、無事ゴールして、声とチームワークの大切さを学ぶことができました。

丸太の上に立って一列に並び、出されたお題のとおり移動する「ラインナップ」では、その題のなかで、半分の人が目を開けられず、話をすることも





できない状況で、残りの話ができる人が頼りだったのに、なぜか話ができる人も無言で、すごく静かに課題がおこなわれていって、結局、最後まで残ってしまったけれども、あきらめずやり遂げることができました。

●女性●山の天気が悪化したために、急遽、予定されていた料理コンテストを早めておこなうことになりました。食材の獲得ゲームにより集まった材料で、さて、何をつくろうか。みんなで頭を絞り、調理に入ったのはまた一番最後でした。最大の難問だった小麦粉は、ナンへと変身しました。

私たちの班はコンテストで1位をいただくことができました。この日は、意見を出し合い、仲間と協力して一つのものでつくり上げることの素晴らしさ、また自然の力を目の当たりにしました。さまざまな問題をクリアするためにも、コミュニケーションを取る必要があるなかで、言葉の大切さを知り、もっと日本語、英語を勉強したいと思いました。

この班がまとまることができたのは、仲間の協力と、なにより班長のリーダーシップにあったと思います。

●男性●今日の午前中には現役で活躍されている5人の女性リーダーの方たちと、ずっと話をさせていただきました。こういう機会も普段ではありえないので、とても興味深く聞かせていただきました。

それぞれのパネラーの方々の体験談をふまえて、まだまだ若い人たちに、とても迫力あるメッセージをいただきました。いま、会社に勤めておられる方、学生の方、これから社会に貢献していくうえで、とても有意義な時間となりました。

そして最後に、できる男になる秘けつ、これらぜひ参考にしたいと思います。

●女性●はじめまして。前はキャンプは一度もした

ことがなかったが、この三日のライラのキャンプは楽しかったので、来てよかったと思います。

私のグループの班長、リーさんは、やさしくてとてもいいリーダーだし、私のグループはすごいチームワークがあって、一緒に話したり、ゲームをしたり、私は日本語の練習をすることにしました。そして、日本語の新しい言葉と大阪弁を少し習いました。

実は昨日のお昼、料理をつくったワークで、いい友だちになったと思います。最後は私に手伝ってくれて、みんなにありがとうと言いたいです。このライラのキャンプは私は決して忘れません。ありがとうございます。

●女性●この三日間は素晴らしかったです。私はこんなに寒いと思わず、何も準備してこなかったけど、周りのみんながやさしくしてくれました。そのほかに、食べものや景色もすごくよかったです。ゲームも楽しかったし、そのゲームを通して友だちもたくさんできました。ほかのグループの人たちとも知り合えていたら、もっと楽しかったと思います。ありがとうございました。

●男性●この三日間、すごく貴重ないい体験をさせていただいて、すごくうれしく思います。普通に生活をしていたら、こんな体験は絶対にできないと思います。本当に秋のライラキャンプは、すごく準備とかはたいへんだったと思うんですけど、ロータリークラブのみなさん、大阪成蹊スポーツ大学のみなさん、そのほか今回のライラキャンプに携わりました人たち、みなさんに感謝したいと思います。

それからこのライラキャンプで培った自主性とか協調性とか積極性を、今日からまた、みなさん、以後の生活に向けて、役立てていきたいと思います。



上級ライラ感想



●女性●二日目から、早朝6時半には起きて、7時にはもうキャンプを出発しまして、山登りをスタートしました。二つのグループに分かれて、それぞれ移動して、トレッキングツアーを始めたんですけど、想像を絶するぐらいの傾斜で、みんな荷物を20キロぐらい背負っているのがががという状態です。

お昼ご飯はそのへんで好きところで、そのへんと言っても山の中腹なんですけど、自分たちで火を持っていっておこして、食事をしたりしました。

トイレなんかはもちろんないので、野外でトイレもすまさないといけない、お風呂も入れませんでした。

トレッキングツアーの宿泊というのは、テントなんて、もちろん担いで行けないので、ブルーシートを3枚持って、それとロープを持って、自分たちで寝所を確保して、テントをつくって、そしてシュラフに入って、寝袋に入って寝ました。そんな経験しながら、1泊2日のトレッキングツアーを頑張ってきました。

●男性●そんな話を聞いて、何を想像しているのかわからないんですけど、ちょっといまからみんなに課題を出します。ここに僕らが全員で立っていますよね。ちょっとみんなの顔、身体をよく見て下さい。10秒しかないですよ。9、8、7、…3、2、1、

終わりです。

よく見たら、多分、何に見えると思う。ああ、かっこいい人もいるな、かわいい子もいるな、外国人もいるなと思うんですけど、ここ、正直見ると、この服の下にはほろほろの足、そして歩けない腰。頭も、いまちょっと、早く寝たいな、そういう人たちばかりですよ。

しかし一つだけは、これ、僕ら全員につながっているものがあるんですよ。それは心は、一つはすごく強くなったと思います。もう一つはすごく感謝の気持ちでいっぱいです。

山に登るときも、どこに行くのかはっきりわからないのです。みんな、特に僕ですけど、しんどいなと思って、どこまで行くのかなって、ずっと思っていたんです。そう言っても、ほかの人が何かを返すと思いますか。「頑張れ」って返すんです。だから何回しんどいって言っても「頑張れ」が返ってくるんですよ。何を言っても「頑張れ」って言うしかないですよ。そのまま、みんな行ったんです。それはみんなわかっているんですけど、その山に入ったら、本当に「しんどい」しか出ないんです。

そのなかでも、もうリーダーとかそういうのはないんです。全員がそれで頑張っていて、頑張って上まで登って。多分そこらへんのどこかの山だと思います。そこへ行って、そのまま戻ってきたんです。だから心は本当に強くなったと思います。



閉講式 式次第

会 場 びわ湖バレイ
司 会 中 井 明 則

- | | | |
|---------------------|-------------------------|---------|
| ● 開会点鐘 | 大阪そねざきロータリークラブ会長 | 中 明 夫 |
| ● 挨拶と修了証書授与 | RI第2660地区ガバナー・エレクト | 新 谷 秀 一 |
| ● ローターアクト委員長の挨拶 | RI第2660地区ローターアクト委員長 | 高 橋 敏 朗 |
| ● 各班からの成果発表 | | |
| ● 講 評 | RI第2660地区青少年活動委員会委員長 | 泉 博 朗 |
| ● ライラ旗の引継 | 大阪北梅田ロータリークラブ会長 | 井 上 孝 |
| ● 閉会の辞 | 大阪そねざきロータリークラブRYLA実行委員長 | 山 田 芙美江 |
| ● ローターソング 「手に手つないで」 | ソングリーダー | 片 本 邦 |
| ● 閉会点鐘 | 大阪そねざきロータリークラブ会長 | 中 明 夫 |

ロータリーソング

「手に手つないで」

手に手つないで	つくる友の輪	
	輪に輪つないで	つくる友垣
手に手 輪に輪	ひろがれまわれ	ひとつ心に
	おおロータリアン	おおロータリアン
手に手つないで	つくる友の輪	
	輪に輪つないで	つくる友垣
手に手 輪に輪	ひろがれまわれ	世界と友に
	おおロータリアン	おおロータリアン

閉講の挨拶

RI第2660地区ガバナーエレクト

新谷 秀一



みなさんこんにちは。今日は白紙の状態で、どのようにご挨拶すればいいのかなと思っております。

ロータリーは職業奉仕だと私は思います。職業奉仕というのは隅へ隅へと追いやられてきているのですけれども、やはり職業を通じて何かみなさん方に見返りができないかということだと思っております。

いま、汗も流さずお金儲けをすることが非常にいいように思われていますが、決してそうではないと思います。やはり汗水流してつくり上げる、これが日本の社会ルールでもあり、職業の根底ではないかと私は思っております。

私も中会長と一緒に学校経営をしております。私の学校で誇れるものはなにか。ごみは一つも落ちていない、たばこの吸い殻も一つも落ちていないです。

ロータリーで指導していただいているある素晴らしい方が言われたことは、たばこの吸い殻を拾うのもロータリアンであれば、たばこの吸い殻を捨てないようにするというかたちが、本来のロータリアン活動ではないかと私は思うわけです。

こつこつとした指導といってもやはり何カ月もかかります。やれと言うとなかなかできないものです。協力してくれと言われても、ものの受け取り方でころっと変わってしまうわけです。じゃあ先輩が困るのだったら協力してやろうということになるわけです。

このライラ、そしてみなさん方の顔を見ていると目が光っているな、こういう若者の目は非常に素晴らしいなと思っております。

初日にウルフと言われた九重親方のお話をお聞きいただいたと思っております。彼がまだ幕下のときに、ある力士の後援会の会長をされており、よく相撲部屋へ行っておりました。いまだに忘れられないのは、彼の目はものすごく澄んでいたことです。すごくいい力士になるんじゃないかと思っておりました。けがも多かったのですけれども、国民栄誉賞までもらうような、あのような立派な力士になりました。

ですから私も、学問とか知識とかというのではなく、やはり努力、知恵、工夫、これが一番大事ではないかと思っております。

われわれ年寄りも、経験は持っています。経験を積んだ人に教えていただくということは非常にいいことですが、あなた方には未来があります。

私なんかは、だんだん歳がいきますと、松下幸之助がよく言われていました「青春とは心の若さだ」なんてよく言っているのですけれども、それだけを思い頑張っていきたいと思っております。

ぜひみなさんも、このようなご縁があるということで、縁も大切にして、今後とも立派に頑張っていたきたいと思っております。簡単ですけど、ご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。



修了証書授与

閉講の挨拶

RI第2660地区ローターアクト委員会委員長

高橋 敏朗



みなさんこんにちは。開講式の際にローターアクトのお話をさせていただきましたが、多分、全然理解されていないと思い、今日も本来は副委員長が来て、話をするようになっていましたが、今日は来ていませんので、私が代わりまして挨拶をさせていただきます。

今日の午前中に、上級ライラの人は受講されていませんけれども、素晴らしいお話を私は聞かせていただきまして、今日はみなさんとこれから復習をしてみたい、かように思っているのです。素晴らしい人とはどういう人なのかという質問をされましたので。

まず、第1番目。山田先生がこうおっしゃいました。目の輝き。目を見て話すこと。これはものすごく大事なこととおっしゃっていただきました。

そして2番目に長尾先生が、いかに公平であるか。そして公私混同をしない人になってほしい。またこれもしかりでございます。

3番目に岸本先生が、思いやり、安らぎが感じられる、そうしたやさしい心を持った人になってほしいとおっしゃっていました。

そして4番目には岩本先生が、ひらめき、第六感を大事にしてほしい。それはなにも先天性のものではなくて、日ごろの努力、そして広範な知識が大事ですとおっしゃっていました。やはり人間は努力しないと、なかなかそういうことは出てこないかもわかりません。

5番目に井田先生が、周り、地域、日本、そして世界に出て行ける人になってほしい。そして責任感のある人になっていただきたい、その五つを私は聞きました。

この心というのはですね、このローターアクトクラブがまさに、みなさん方のプログラムにおいて、実践していることでございます。ぜひ、感動をされたみなさんがおられましたら、ローターアクトの門を叩いていただけたらありがたいと思います。

このあと現役のローターアクターにお話をさせていただきますが、その前に大阪そねぎきロータリークラブのみなさん、本当にありがとうございました。これからもローターアクトをよろしく願い申し上げます。

講 評

RI第2660地区青少年活動委員会委員長

泉 博朗



「SKY, WIND AND HARMONY」ということで、秋のライラ、無事終了いたしました。最後の発表は時間がかかりましたけれども、みなさんが主役ですから、みなさんにひとことひとこと話していただけたことが、本当にうれしく思います。こんなに素晴らしいライラはないと思いますね。

僕はこの閉会式が大好きなんです。だいたいみんなこんな感じで、去年や春に来られた方はわかりますけれど、みんな素晴らしい言葉がありました。

多くの言葉のなかで、「感謝」というものと「心が通じ合う」、そして人と話ができる、人の話が聞けるといってお話がたくさんありました。本当に素晴らしいと思います。

そしてパネルディスカッションもしました。これは本当に素晴らしいことで、われわれもたいへん勉強になりました。

パネルディスカッションのなかで、責任感を持つということがありましたよね。ところがみなさん方は、そんないい加減じゃないんだけど、なんか人から無責任だとか言われる。そう言われる方がひょっとしたらあるかもしれない。それは何かなというと、自分の立場がよくわかっていないということだと思うんですね。

今日は何時に来ないといけないというのは、おまえを待っているんだと。自分が百人の一人だったら遅れてもいいじゃないか。だけどおまえを待っているのに、どうしてこの時間に来ないのかということになりますね。そういうことの様子になります。

それから二日目ですね。本当はキャンプファイヤーもする予定だったんです。ところが天候が悪くて中止になりました。これはリーダーの黒澤さんの決断力ですね。どっちかという決められたことをずっとやるというのは普通じゃないですか。決められたことをやろうとする。だけど黒澤さんは、いや、そうじゃないんだと。ここでやめるんだという決断をされたんですね。これはリーダーの一番大切なところなんです。危険だからやめようというのでね。だから山登りをしているも、途中から引き返そう。これは素晴らしい決断なんですね。ということ、自然のいたずらかもしれないけれども教えてくれました。

それから最後に一つだけ申しあげたいことがあります。それは昨日、ものすごく寒かったんですね。その寒かったことをおうちに帰って言ってほしいということです。おうちの人を信用してくれるかどうか。だって大阪は暖かかったし、そんな大げさなことと言われるかもしれない。

でも、あなたはまもなくお父さんやお母さんになります。子どもに「寒かってん」と言われ

たときに、あなた方がいま思った気持ちのように、子どもが本気で言っているのに、親としてそんなたいしたことないだろうと、子どもの信号を聞き逃してしまう。お母さんに「死ぬほど寒かった」と言ったときに、どれだけ理解してもらえるかということを試してみたいなど。

もちろん「ほんとやね」という言う方もあるし、そんなおおげさなと思われるかもしれない。だけど、ひょっとしたらあなた方が親になったとき、そのところをもうちょっとわかってほしいなというのが、子どもの気持ちかもわかりませんね。

それからあなた方は、リーダーシップを研修したいんだというような気持ちで全員来られているわけではないと思います。リーダーになりたくないよというのがお気持ちかもしれません。

でも、あなた方はまもなく、先ほど申しましたようにお父さんやお母さんになります。これはおうちのなかでは父親しか、母親しかリーダーはいないんですね。他人に任せるわけにはいけない。絶対あなた方は、おうちのなかでは素晴らしいリーダーにならなければならない。

そういう意味で、今日はいろいろと勉強したことを思い出していただいて、素晴らしいリーダーになっていただきたいと思います。

そして最後に、先ほども何回も申しあげていますが、ロータリーのなかでローターアクトという組織がございます。これも日々、こういう研鑽をしているクラブでございますので、みなさん方であってみたいという方は、このそねざきさん、あるいは私どものほうに、ローターアクトに入りたいんだけどどうしたらいいかなということで、ご一報いただければと思います。

それからもう一つ。みなさんはいま初級です。そして上級ライラを受けられました。今回はたまたま成蹊スポーツ大学のリーダーがあなた方の研修をいたしましたけれども、普段のライラは、チームライラということであなた方の研修をします。

今回はそのみなさん方にお世話できなかった部分、自分たちで研修をしようということで、琵琶湖を半周ぐらいサイクリングをして、共に研修しております。後ろにおりますチームライラの諸君、起立をお願いいたします。

みなさん、ぜひ上級ライラを受けていただいて、そしてリーダーシップの研修を受けていただきまして、われわれとともにこのライラを盛り上げていただけたらと思います。

それでは最後になりましたけれども、この素晴らしい秋のライラを実行くれました中会長はじめ、山田実行委員長、そねざきロータリークラブのみなさん、そして何よりもみなさん方を研修していただきました成蹊スポーツ大学の黒澤先生をはじめリーダーのみなさま、本当に心より感謝を申しあげます。ありがとうございました。

ライラ旗の引継

大阪そねざきロータリークラブ中明夫会長から、大阪北梅田ロータリークラブ井上孝会長へとライラ旗が引き継がれました。

大阪北梅田ロータリークラブ会長

井上 孝



三日間ご苦労さまでございました。私は来年の春のライラをホストさせていただきます大阪北梅田ロータリークラブの井上でございます。

本日、ご出席の受講生のみなさん、また来年、もしもう一度参加しようという志のある方がおられましたら、またクラブを通じまして、お申し込みいただきたいと思います。どうもご苦労さまでございました。

閉会の辞

大阪そねざきロータリークラブRYLA実行委員長

山田 美美江

みなさん、ありがとう。感動を私もいただきました。私たちホストをしております大阪そねざきロータリークラブの会員、みんな感動しております。ありがとう。

いま会長から、次の会長さんへとお渡ししまして、それを見ておまして、終わったと思ったんですね。本当に事故もなく、天候の悪さと厳しさのなかで、みなさんに言っていただいたこと、いま委員長からお話ございましたので、あえて私は申しません。びわこ成蹊スポーツ大学の黒澤先生をはじめ、みなさんありがとう。

いま、みなさん全員発表してくれましたね。みんなの思い、感謝の言葉を語ってくれた、それを多くのロータリアンが聴いています。本当にこんな感動をくださって、みなさんありがとう。お礼の言葉を述べまして、私の閉講式の辞とさせていただきます。ありがとうございました。

2006年 秋のライラ受講生一覧表 「初級ライラ」

※当日欠席者をのぞく 80名

氏 名	推薦クラブ
柿 元 光	茨 木 東
中 村 麻衣子	
中 村 恵梨子	
藤 明 子	
森 麻矢子	池 田
郭 定 康	
奥 村 久 継	守 口
久 保 充 弘	大 阪
馬 場 暁 子	
堀 志 帆	大阪フレンド
RAI SRIJANA	大 阪 中 央
BOKELEMA STELLA TUENA	
阪 上 典 子	大 阪 東
GANBAATAR NOMIN	大 阪 東 淀
TELLI SIM JERRYLINE	
PAMPLIEGA ROSEBELLE VECER	
SYPHOXAI SOULIVONG	
松 本 真 衣	大 阪 平 野
西 村 知 美	
首 藤 佑 吾	大 阪 本 町
PHILIP SHOAF	大阪イブニング
近 藤 昭 一	大 阪 御 堂 筋
石 橋 広 楠	
FLORENTIN SOSA VICTOR MANUEL	大 阪 中 之 島
AYEBAZIBWE HERBERT BEN	
吉 川 美 佐 子	大 阪 南
松 井 夕 佳	

氏 名	推薦クラブ
森 本 秀 樹	大 阪 南
渡 邊 裕 輔	
ZAR ZAR HEIN'Y	大 阪 西
藤 本 佳 澄	
高 澤 春 奈	大 阪 咲 洲
伊 奈 明 日 香	
FLORIAN SCHMALZL	大 阪 西 南
田 畑 耕 介	大 阪 心 斎 橋
NSTHAN JENNINGS	大 阪 天 満 橋
山 崎 正 美	大 阪 東 南
山 崎 博 美	
小 林 史 典	
増 井 梓	
広 瀬 孝 和	大 阪 鶴 見
山 本 幸 一	大 阪 梅 田 東
鄒 選	大 阪 う つ ぼ
加 藤 拓 己	
渡 辺 花	大阪ユニバーサル
山 口 千 尋	
村 上 修 平	吹 田 西
西 山 正 紀	
下 門 文 雄	
森 真 理 絵	高 槻 西
平 田 友 香	
坂 田 仁 史	高 槻 東
桧 野 大 造	
佐 野 亮 太	

「上級ライラ」

※当日欠席者を
のぞく

10名

氏名	推薦クラブ	
上月光大	2650地区 地区RYLA委員	
国友晃		
MACHARIA MARTIN MWANGI	地区青少年	
SUZUKI KOJI ALEXANDRE OLIVEIRA		
LUO MEI LIAN		
イン チャンミン		
チョウ イシン		
チン ハオ		
河 美 眞		
INTAN RAHMAWATI		
漆 原 功 二		
樽 井 成 明		
寥 修 雅		大阪そねざき
勇 香 織		
尾 角 光 美		
河 野 彌 々		
八 尾 麻 世		
中 西 梓		
前 田 祐 志		
木 村 香 央 里		
芦 田 さ や か		
西 岡 美 紀		
人 見 隆 信		
日 下 新 悟		
上 谷 清 孝		
MHAIRI TREHARNE		

氏名	推薦クラブ
吉原真弓	大阪北
MATHEW RANJU	吹田江坂
MAWER BRADLEY	大阪城南
DORAPER JAMES	大阪鶴見
李 落 落	大阪阿倍野
高橋洋子	大阪御堂筋
義永秀一	大阪中央
宮川翼	茨木西
新田恭子	新大阪
萩原佑亮	大阪そねざき

基調講演応援スタッフ

- 学校法人大阪成蹊学園 教育研究所
事務部長 東別府 良彦

初級ライラ応援スタッフ

- びわこ成蹊スポーツ大学教員
黒澤 毅 中野 友博
- びわこ成蹊スポーツ大学生
松田 優子 柴田 さやか
相羽 亮平 田中 翔子
谷口 善晴 西川 恵梨奈
木村 香織 荒川 和也
北原 亮 松尾 晃宏

上級ライラ応援スタッフ

- びわこ成蹊スポーツ大学教員
伊原 久美子
- びわこ成蹊スポーツ大学生
川島 藍

クラブ別登録一覧表

(登録) 417名 (初級) 81名 (上級) 11名

クラブ名	RC会員	初 級		上 級	
		男	女	男	女
大 東	1				
大 東 中 央	1				
東 大 阪	2				
東 大 阪 中 央	2				
東 大 阪 東	1				
東 大 阪 み ど り	1				
東 大 阪 西					
枚 方	1				
茨 木	6				
茨 木 東	2	1	3		
茨 木 西	3			1	
池 田	1	1	1		
池 田 く れ は	5				
門 真	1				
交 野	33				
香 里 園	3				
く ず は	3				
箕 面					
箕 面 中 央					
守 口	3	2			
守 口 イブニング	2				
寝 屋 川	3				
大 阪	5	1	1		
大 阪 阿 倍 野	1				1
大 阪 ち ゃ や ま ち	1				
大 阪 中 央	42		2	1	
大 阪 堂 島	6				
大 阪 フ レ ン ド	3		1		
大 阪 阪 南	1				
大 阪 東	5		1		
大 阪 東 淀	2	1	3		
大 阪 平 野	1		2		
大 阪 本 町	2	1			
大 阪 イブニング	21	1			
大 阪 城	1				
大 阪 城 南				1	
大 阪 城 東	3				
大 阪 柏 原					
大 阪 北	2				1
大 阪 北 梅 田	3				
大 阪 御 堂 筋	2	2			1
大 阪 南	2	2	2		
大 阪 中 之 島	16	2			
大 阪 難 波	3				
大 阪 な に わ	3				
小 計	199	14	16	3	3

クラブ名	RC会員	初 級		上 級	
		男	女	男	女
大 阪 南 西					
大 阪 西	1		2		
大 阪 大 手 前					
大 阪 大 淀					
大 阪 リバ ー サ イ ド	3				
大 阪 咲 洲	1		2		
大 阪 西 北	1				
大 阪 西 南	1	1			
大 阪 船 場	3				
大 阪 心 齋 橋	2	1			
大 阪 城 北					
大 阪 そ ね ざ き	59	4	10	1	
大 阪 住 之 江	1				
大 阪 住 吉	4				
大 阪 天 満 橋	10	1			
大 阪 天 王 寺	4				
大 阪 東 南	1	1	3		
大 阪 鶴 見	15	1		1	
大 阪 梅 田					
大 阪 梅 田 東	37	1			
大 阪 う つ ぼ	2	2			
大 阪 淀 川	4				
大 阪 ユ ニ バ ー サ ル シ テ ィ	1		2		
千 里	3				
千 里 メ イ プ ル	3				
摂 津	3				
四 条 畷	3				
新 大 阪	1				1
吹 田	1				
吹 田 江 坂	21			2	
吹 田 西	2	3			
高 槻	1				
高 槻 東	1	3			
高 槻 西	1		2		
豊 中	2				
豊 中 南	1				
豊 中 大 阪 国 際 空 港					
豊 中 千 里	21				
八 尾					
八 尾 中 央	3				
八 尾 東					
地 区 青 少 年		5	5		
2 6 5 0 地 区	1	2			
小 計	218	25	26	4	1
総 合 計	417	39	42	7	4

2006年秋のRYLA 収支決算報告書

2007年1月30日 現在

I 収入の部	
①地区よりの補助金	2,850,000
②ロータリアン登録料	2,502,000 (417名)
③上級ライラ登録料	220,000 (11名)
④初級ライラ登録料	648,000 (81名)
⑤預金利息	622
<hr/>	
収入の部合計 (A)	6,220,622

II 支出の部	
①バスチャーター料	202,350
②保険料	49,692
③諸会合費	399,043
④活動費	4,513,863
⑤通信費	68,340
⑥印刷費	942,715
⑦消耗品費	25,889
⑧雑費	18,730
<hr/>	
支出の部合計 (B)	6,220,622

差引余剰金 (A - B)	0
---------------	---

後記

「SKY, WIND and HARMONY (空と風と調和)」～21世紀の豊かさの意味を考えよう～のテーマの下に、大阪そねぎきロータリークラブによる“こだわりのライラ”が無事終了しました。

思い返せば開催1年以上前の2005年10月、第1回の「秋のライラ準備委員会」が行なわれ、上記のテーマ選考からライラ準備は始まりました。その後2006年10月の開催にいたるまで、「ああでもない、こうでもない」の繰り返し。参加者を募るべくローターアクトクラブ例会へも訪問し、プログラム内容もいかに「そねぎき」らしさを出せるか、何度も何度も練り直しを行ないました。こだわればこだわるだけ手間が増え、当クラブ会員への時間的負担が、開催1ヶ月前ころには限界寸前だったと思います。

「はたしてここまでがんばる意義があるのだろうか？」と幾度となく自問しつつも、「ここまでできたら絶対にやり遂げるぞ」という思いが常にそれを上回り、何とか開催日を迎えることができました。

初日は開講式のあと、元横綱千代の富士 九重親方による基調講演、2日目はびわ湖バレイの美しい自然を満喫しながらの野外活動、3日目はなにわで活躍する女性リーダーたちによるパネルディスカッションと閉講式、というプログラムを予定していましたが、2日目は予想を上回る悪天候・低気温で、プログラムを若干変更することになりました。これも自然の怖さを改めて体で感じる良い勉強になったと思います。

上級ライラは2日目・3日目で、武奈ヶ岳のトレッキングに挑戦しました。本格的な野外活動体験で、自然の偉大なる力、チームワークの大切さなどを、身をもって学んでいただけたのではないかと思います。

終わってみると、とても楽しい思い出ばかりです。参加者からもたくさんの感謝のお言葉をいただきました。ライラほど「やってみないとわからない素晴らしさ」を持つロータリー活動は少ないのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今回のライラホストという大きな役割を通じて、当クラブ会員の団結力は一段と強くなりました。私たちにとっての最大の成果はこれかもしれません。また、今回多大なるご尽力を賜った2660地区青少年委員会の泉委員長、北山前委員長、びわこ成蹊スポーツ大学の黒澤先生、大阪成蹊学園の東別府事務部長、チームライラの皆様、各ロータリークラブ会員の皆様に対し、心から感謝申し上げますとともに、今後のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

大阪そねぎきロータリークラブ

秋のライラ実行委員会 会員一同



大阪そねざきロータリークラブ

2006-2007 秋のライラ報告書
ホスト：大阪そねざきロータリークラブ

秋のライラ実行委員会